

# 石川県における行事食と調理文化に関する研究（第1報）

## Research on Yearly Events and Cookery Culture in Ishikawa Prefecture (the First Report)

中村喜代美\*<sup>1</sup> 新澤祥恵\*<sup>2</sup> 川村昭子\*<sup>3</sup>

### Abstract

As part of special research by the Japanese Society of Cookery Science, states of “event meals” were surveyed in 19 municipalities of Ishikawa Prefecture. The survey covered 20 yearly events and 13 rites of passage. Among the events, “the seasonal festival of Choyo (September 9th)”, “Oku-Noto no aenokoto (the harvest festival of the deep Noto region on December 5th)”, and “Hoonko (the anniversary of Shinran’s death on November 28th)” were not well recognized and no clear differences were found in the level of recognition among the rites of passage. With respect to the yearly events, a great majority of people experienced “New Year”, whereas fewer people experienced “the aenokoto”, “the seasonal festival of Choyo”, “Hoonko”, “tsukimi (moon watching)”, and “tanabata (the star festival)”. With respect to the rites of passage, not many people experienced “oshichiya (the seventh day after birth)” and “momokaiwai (wishing healthy growth around day 100 after birth, when weaning food begins to be given)”. Regions of the prefecture were classified into five groups on the basis of experience, among which regional differences were found in “higan (the equinox days)”, “toji (the winter solstice)”, and “Hoonko”.

キーワード：行事食／伝統食／食文化

### I. はじめに

我々は、日々の生活の節目に様々な行事を営んできた。また、誕生してからの人生において、その折々に節目の行事を営んでいる。これらの年中行事や通過儀礼については、中国の影響を受けたもの、公家や武士から庶民へ伝播したもの、或いは、農耕儀礼の中で育まれたものなど、様々なものが定着していった<sup>(1)</sup>。

今日、我々は豊かな食生活を享受できるようになり、常時、多くの食を得ることが可能になった。しかし、旧来、平素は質素な食事であったが、特

別の行事の折には、日常は喫食できない食物が準備されており、行事における食の果たす役割は大きかったものと考えられる。

年中行事や通過儀礼の際のハレの日の食事は、各地で様々な形で伝承されており、伝統的な祝いや祭りの行事は日常生活の節目となり、風土に根ざした食べ物が、生活に喜びを与えてきた。しかし、生活環境、食環境の変化にともない、伝統的な行事食を家庭で調理する機会が減る一方で、クリスマスなどが新たな行事として加わるなど、行事食も姿を変えつつある。

日本調理科学会では、特別研究「調理文化の地域性と調理科学」として、平成13・14年には「イモ類と豆類」を、平成15・16年には「魚介類」を取り上げて、全国一斉の調査研究を行ってきた。引き続き、平成21・22年度には「行事食」をテー

\*<sup>1</sup> NAKAMURA, Kiyomi  
北陸学院大学短期大学部 食物栄養学科 調理学実習

\*<sup>2</sup> NIIZAWA, Yoshie  
北陸学院大学短期大学部 食物栄養学科 調理学

\*<sup>3</sup> KAWAMURA, Akiko  
金沢学院短期大学 食物栄養学科

マとして調査研究を実施することとなり、石川県においても、筆者等3名が、この調査研究に参加することとなった。

本報告は、この調査の内、各行事の認知と経験の状況について、検討したものである

表1 属性等に関する質問の回答数

アイテム	カテゴリー	人数(人)	比率(%)
居住期間	5年未満	7	1.5%
	5~10年	9	2.0%
	10~20年	26	5.6%
	20~30年	34	7.4%
	30年以上	385	83.5%
以前に10年以上居住する地域の有無	ある	17	3.7%
	ない	2	0.4%
	無回答	442	95.9%
性別	男	2	0.4%
	女	459	99.6%
年齢	20歳未満	0	0.0%
	20歳代	3	0.7%
	30歳代	9	2.0%
	40歳代	11	2.4%
	50歳代	72	15.6%
	60歳代	269	58.4%
	70歳代	90	19.5%
	80歳以上	6	1.3%
	無回答	1	0.2%
同居の家族構成	同世代	197	42.8%
	二世帯	138	30.0%
	三世帯	74	16.1%
	四世帯	10	2.2%
	本人一人	30	6.5%
	その他	5	1.1%
職業	無回答	6	1.3%
	会社員	22	4.8%
	自営業	33	7.2%
	農林水産業	29	6.3%
	専業主婦(主夫)	296	64.2%
	学生	0	0.0%
	アルバイト・パート	41	8.9%
	その他	37	8.0%
	無回答	3	0.7%
主な調理担当の有無	有	428	92.8%
	無	32	6.9%
	無回答	1	0.2%
行事食の影響	父方	33	7.2%
	母方	247	53.6%
	配偶者	77	16.7%
	その他	29	6.3%
	わからない	24	5.2%
過去に10年以上居住地域	無回答	51	11.1%
	石川県	10	62.5%
	北海道	1	6.3%
	神奈川県	1	6.3%
	千葉県	1	6.3%
	三重県	1	6.3%
	大阪府	1	6.3%
山口県	1	6.3%	
影響地域	石川県	311	89.1%
	富山県	9	2.6%
	大阪府	8	2.3%
	東京都	3	0.9%
	愛知県	3	0.9%
	北海道	2	0.6%
	静岡県	2	0.6%
	福井県	2	0.6%
	京都府	2	0.6%
	山口県	2	0.6%
	青森県	1	0.3%
	千葉県	1	0.3%
	新潟県	1	0.3%
	岐阜県	1	0.3%
	宮崎県	1	0.3%

## II. 研究方法

### 1. 調査方法

2010年3月~5月に石川県内19市町村の食生活改善推進員協議会メンバーを対象とし、行事食について、自記式留置法により調査を行った(表1)(表2、図1)。有効回収数は461名である。尚、これと併せ、本学とK短大の学生を対象に同様の調査を行った。学生の有効回収数は288名である。

表2 市町村別回収数

市町村	回収数	市町村	回収数
合計	461	金沢市	29
加賀市	39	羽咋市	28
小松市	20	志賀町	37
能美市	21	宝達志水町	17
川北町	4	七尾市	31
白山市	31	中能登町	31
野々市町	20	輪島市	15
かほく市	18	穴水町	21
津幡町	20	能登町	27
内灘町	25	珠洲市	27

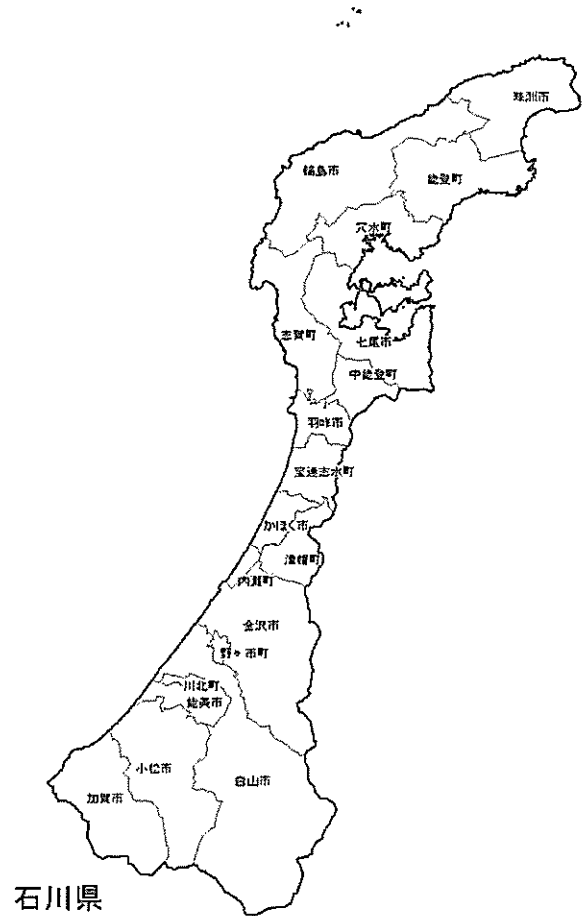


図1 石川県の市町村地図

2. 調査内容と検討方法

今回の報告に取り上げた調査内容は、年中行事 20、通過儀礼 13 の認知の状況と経験の状況である。

年中行事のうち 17 と、通過儀礼 13 については、全国共通の調査項目として示されたものであるが、これに、当県独自のものとして、「氷室」「報恩講」「あえのこと」を加えた（表 3-1）（表 3-2）。

表 3-1 年中行事

1 正月
2 七草
3 節分
4 上巳
5 彼岸(春)の中日
6 端午の節句
7 盂蘭盆
8 七夕
9 土用の丑
10 重陽の節句
11 お月見
12 彼岸(秋)の中日
13 冬至
14 クリスマス
15 大晦日
16 春まつり
17 秋まつり
18 氷室
19 報恩講
20 あえのこと

表 3-2 通過儀礼

1 出産祝い
2 お七夜
3 百日祝い
4 初誕生
5 誕生日
6 七五三
7 成人式
8 結納
9 婚礼
10 厄払い
11 長寿の祝い
12 葬儀
13 法事

以上、年中行事 20、通過儀礼 13 について、食生活改善推進員を対象とした回答をもとに、認知の状況と経験の状況について検討したが、一部、学生を対象とした結果との比較も行った。

Ⅲ. 結果と考察

1. 年中行事の認知と経験

はじめに、年中行事 20 種類の説明及び認知状況（図 2-1、表 4-1）と喫食経験（図 2-2、表 4-2）を合わせて検討を行った。

旧暦では 1 月～3 月を春、4 月～6 月を夏、7 月～9 月を秋、10 月～12 月を冬としていた<sup>(3)</sup>。

①「正月」は、旧年が無事に終わった事と新年を祝う行事である。「正月」について知っているものは 94.4% と 9 割以上のものが知っていたが、全員ではなかった。食べた経験があるものも 9 割程と多くなっていた。正月に用意されるものには、「屠蘇」、「雑煮」、「おせち料理」がある<sup>(4)</sup>。

「屠蘇」とは、漢方薬を調合した「屠蘇散」を日本酒やみりんで浸して作る薬酒のことで「鬼氣を祓い、人魂を甦らせる」と言われている。<sup>(4)</sup>

図 2-1 年中行事の認知

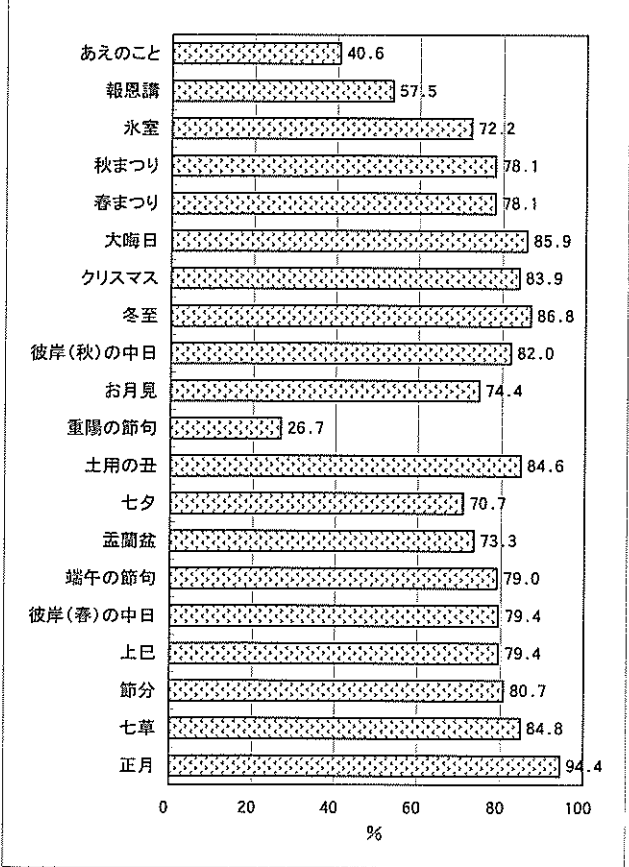


図 2-2 年中行事の経験率

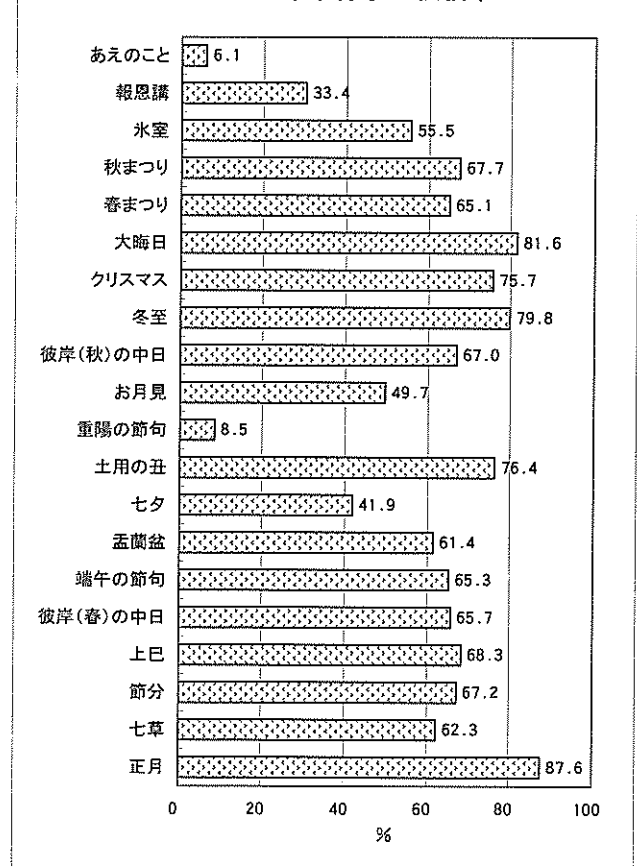


表4-1 年中行事の認知状況 (地域別-1)

	正月	七草	節分	上巳	彼岸(春) の中日	端午の節 句	盂蘭盆	七夕	土用の丑	重陽の節 句	
全体	461	94.4	84.8	80.7	79.4	79.4	79.0	73.3	70.7	84.6	26.7
加賀市	39	94.9	92.3	92.3	92.3	89.7	89.7	79.5	74.4	94.9	28.2
小松市	20	100.0	100.0	95.0	85.0	100.0	100.0	95.0	95.0	100.0	50.0
能美市	21	85.7	61.9	61.9	71.4	61.9	71.4	47.6	52.4	61.9	28.6
川北町	4	100.0	100.0	100.0	75.0	50.0	100.0	100.0	75.0	100.0	0.0
白山市	31	96.8	93.5	80.6	74.2	71.0	71.0	58.1	54.8	71.0	35.5
野々市町	20	100.0	90.0	85.0	80.0	70.0	80.0	75.0	90.0	90.0	35.0
かほく市	18	100.0	88.9	66.7	61.1	66.7	61.1	55.6	72.2	77.8	38.9
津幡町	20	95.0	90.0	80.0	80.0	65.0	70.0	70.0	80.0	95.0	20.0
内灘町	25	96.0	72.0	68.0	64.0	68.0	68.0	68.0	72.0	72.0	28.0
金沢市	29	100.0	82.8	65.5	65.5	72.4	69.0	58.6	65.5	79.3	37.9
羽咋市	28	82.1	96.4	96.4	92.9	100.0	100.0	92.9	82.1	100.0	32.1
志賀町	37	94.6	64.9	70.3	73.0	75.7	73.0	75.7	62.2	83.8	8.1
宝達志水町	17	88.2	82.4	82.4	76.5	88.2	88.2	70.6	52.9	88.2	11.8
七尾市	31	93.5	90.3	83.9	87.1	87.1	90.3	80.6	67.7	80.6	32.3
中能登町	31	96.8	90.3	83.9	80.6	77.4	80.6	74.2	74.2	87.1	25.8
輪島市	15	80.0	73.3	73.3	73.3	73.3	73.3	73.3	53.3	80.0	26.7
穴水町	21	100.0	95.2	95.2	95.2	95.2	95.2	90.5	90.5	95.2	19.0
能登町	27	100.0	81.5	81.5	92.6	88.9	63.0	77.8	66.7	88.9	18.5
珠洲市	27	88.9	77.8	81.5	74.1	74.1	70.4	66.7	70.4	74.1	14.8

表4-1 年中行事の認知状況 (地域別-2)

	お月見	彼岸(秋) の中日	冬至	クリスマ ス	大晦日	春まつり	秋まつり	氷室	報恩講	あえのこ と	
全体	461	74.4	82.0	86.8	83.9	85.9	78.1	78.1	72.2	53.4	40.6
加賀市	39	82.1	87.2	97.4	84.6	100.0	87.2	84.6	87.2	61.5	30.8
小松市	20	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.0	95.0	95.0	100.0	90.0
能美市	21	61.9	57.1	66.7	61.9	61.9	52.4	57.1	61.9	47.6	23.8
川北町	4	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	100.0	25.0
白山市	31	61.3	61.3	74.2	74.2	74.2	61.3	67.7	61.3	51.6	25.8
野々市町	20	85.0	90.0	95.0	90.0	85.0	75.0	85.0	85.0	60.0	30.0
かほく市	18	77.8	66.7	72.2	72.2	72.2	72.2	77.8	83.3	77.8	55.6
津幡町	20	80.0	80.0	90.0	80.0	80.0	75.0	80.0	85.0	70.0	35.0
内灘町	25	72.0	72.0	72.0	76.0	72.0	48.0	56.0	60.0	44.0	16.0
金沢市	29	72.4	82.8	79.3	79.3	75.9	65.5	72.4	82.8	58.6	37.9
羽咋市	28	96.4	100.0	100.0	96.4	100.0	100.0	100.0	96.4	85.7	57.1
志賀町	37	59.5	78.4	86.5	83.8	86.5	78.4	73.0	56.8	27.0	24.3
宝達志水町	17	64.7	94.1	88.2	82.4	88.2	88.2	82.4	76.5	70.6	35.3
七尾市	31	71.0	87.1	93.5	90.3	93.5	83.9	77.4	64.5	51.6	29.0
中能登町	31	80.6	87.1	93.5	96.8	100.0	96.8	93.5	80.6	64.5	48.4
輪島市	15	73.3	80.0	80.0	80.0	80.0	66.7	53.3	40.0	53.3	46.7
穴水町	21	85.7	95.2	95.2	95.2	95.2	90.5	90.5	66.7	47.6	52.4
能登町	27	66.7	88.9	88.9	85.2	92.6	81.5	77.8	59.3	25.9	51.9
珠洲市	27	66.7	70.4	81.5	77.8	74.1	77.8	74.1	55.6	59.3	66.7

「雑煮」はその年はじめの火で若水を入れた鍋に年神様にお供えした餅を煮込んで食べるのが習わしである<sup>(4)</sup>。

「おせち」とは節日に神様に供える「節供料理」から来ている。元旦と五節句（人日、上巳、端午、七夕、重陽）を指すが、今では元旦に供える料理だけ「おせち」と呼んでいる。「おせち」は年神様に供えた料理のおさがりをいただくことで、力を授かることができると言われており、神様と共に祝う意味がある。食材や料理には祝いごちな3種、黒豆（1年中まめに働き、健康的に暮らせるように）、数の子（子孫繁栄）、田作り（五穀豊穡）などの他、鯛、海老、鰯、紅白なますなど縁起物

が入れられる<sup>(4)</sup>。

②「1月七日」は五節句のひとつ「人日の節句」で、この日の朝に「七草粥」として芹、薺、御形、はこべら、仏の座、<sup>なすな</sup>菘、<sup>すずな</sup>蘿蔔の若菜を粥に炊き込んで食べると万病を祓い、長生きすると言われる。野に咲く若芽から新しい生命力を取り入れる意味がある。また、おせち料理で疲れた胃を休め、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素を補うという効能もある<sup>(4)</sup>。

「七草粥」は全体の8割以上のものが知っており、6割以上のものが食べた経験があった。地域別では、加賀市で79.5%と多くのものが食べていた。

表 4-2 年中行事の経験（地域別-1）

経験	人数	正月	七草	節分	上巳	彼岸(春) の中 日	端午の節 句	盂蘭盆	七夕	土用の丑	重陽の節 句
全体	461	87.6	62.3	67.2	68.3	65.7	65.3	61.4	41.9	76.4	8.5
加賀市	39	94.9	79.5	87.2	92.3	84.6	79.5	69.2	48.7	92.3	15.4
小松市	20	100.0	55.0	45.0	45.0	35.0	50.0	80.0	35.0	85.0	10.0
能美市	21	81.0	38.1	47.6	47.6	42.9	47.6	42.9	28.6	52.4	9.5
川北町	4	75.0	75.0	50.0	50.0	25.0	50.0	75.0	25.0	75.0	0.0
白山市	31	80.6	71.0	74.2	71.0	61.3	51.6	45.2	38.7	61.3	12.9
野々市町	20	95.0	50.0	70.0	60.0	60.0	70.0	65.0	40.0	85.0	5.0
かほく市	18	94.4	66.7	50.0	50.0	44.4	44.4	38.9	33.3	61.1	5.6
津幡町	20	75.0	65.0	70.0	70.0	55.0	60.0	65.0	50.0	65.0	0.0
内灘町	25	84.0	48.0	48.0	44.0	44.0	48.0	48.0	44.0	68.0	8.0
金沢市	29	62.1	65.5	55.2	55.2	58.6	51.7	41.4	48.3	69.0	10.3
羽咋市	28	75.0	67.9	89.3	82.1	85.7	92.9	78.6	39.3	82.1	14.3
志賀町	37	94.6	54.1	64.9	70.3	70.3	67.6	59.5	43.2	78.4	2.7
宝達志水町	17	88.2	58.8	70.6	70.6	70.6	88.2	58.8	35.3	82.4	0.0
七尾市	31	90.3	77.4	74.2	80.6	83.9	87.1	77.4	41.9	71.0	16.1
中能登町	31	93.5	71.0	77.4	80.6	71.0	77.4	71.0	54.8	83.9	16.1
輪島市	15	80.0	53.3	53.3	60.0	53.3	53.3	53.3	33.3	80.0	13.3
穴水町	21	100.0	71.4	76.2	81.0	85.7	81.0	71.4	42.9	90.5	0.0
能登町	27	100.0	44.4	59.3	70.4	81.5	48.1	70.4	33.3	88.9	3.7
珠洲市	27	88.9	59.3	70.4	66.7	63.0	59.3	55.6	48.1	70.4	0.0

表 4-2 年中行事の経験（地域別-2）

経験	人数	お月見	彼岸(秋) の中 日	冬至	クリスマ ス	大晦日	春まつり	秋まつり	氷室	報恩講	あえのこ と
全体	461	49.7	67.0	79.8	75.7	81.6	65.1	67.7	55.5	30.2	6.1
加賀市	39	66.7	74.4	97.4	84.6	97.4	76.9	79.5	82.1	30.8	0.0
小松市	20	25.0	65.0	65.0	70.0	95.0	45.0	50.0	65.0	50.0	0.0
能美市	21	28.6	33.3	52.4	42.9	47.6	42.9	52.4	38.1	28.6	0.0
川北町	4	50.0	25.0	75.0	50.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	0.0
白山市	31	35.5	51.6	61.3	61.3	64.5	41.9	54.8	48.4	25.8	3.2
野々市町	20	60.0	65.0	90.0	85.0	90.0	60.0	65.0	65.0	35.0	5.0
かほく市	18	33.3	50.0	61.1	66.7	66.7	61.1	72.2	55.6	50.0	0.0
津幡町	20	40.0	60.0	80.0	60.0	70.0	50.0	60.0	60.0	25.0	5.0
内灘町	25	48.0	60.0	52.0	60.0	56.0	32.0	52.0	56.0	20.0	0.0
金沢市	29	55.2	62.1	62.1	69.0	65.5	41.4	58.6	65.5	27.6	0.0
羽咋市	28	67.9	78.6	96.4	89.3	100.0	92.9	100.0	82.1	64.3	3.6
志賀町	37	45.9	67.6	86.5	81.1	83.8	73.0	67.6	51.4	13.5	2.7
宝達志水町	17	41.2	76.5	88.2	82.4	88.2	82.4	76.5	70.6	58.8	0.0
七尾市	31	48.4	87.1	93.5	90.3	93.5	74.2	64.5	54.8	29.0	3.2
中能登町	31	64.5	80.6	90.3	90.3	96.8	90.3	87.1	64.5	48.4	3.2
輪島市	15	53.3	60.0	80.0	73.3	80.0	60.0	33.3	20.0	26.7	20.0
穴水町	21	57.1	95.2	95.2	95.2	95.2	85.7	85.7	42.9	14.3	4.8
能登町	27	51.9	74.1	88.9	74.1	92.6	74.1	70.4	22.2	18.5	33.3
珠洲市	27	48.1	55.6	77.8	74.1	70.4	66.7	63.0	29.6	44.4	29.6

③「節分」は、立春・立夏・立秋・立冬の前日をさす言葉で、「季節を分ける」ことを意味している。節分のうち、立春が有名で、節分の鬼を払う悪霊ばらい行事は、節分当日の夕暮れ、柗の枝に鯛の頭を刺したものを戸口に立てておいたり、寺社で豆撒きをしたりする。いり豆や鯛料理を食べたり、最近では巻き寿司を食べる家庭が多くなった<sup>(4)(5)</sup>。

「節分」では、全体の8割のものが知っており、6割以上のものが豆まきの経験があった。また、地域別の経験では、羽咋市89.3%、加賀市87.2%と多くなっていた。

④「上巳」には女兒の成長を願いひな祭りを挙げる。古代中国では上巳は邪気にみまわれやすい日とさ

れ川で身を清める習慣があった。それが、日本に伝わり「雛あそび」の始まりとなった。また、紙製の小さな人の形に穢れを移し、川や海に流す風習は、「流し雛」として残っている。雛祭りには、雛人形、桃の花を飾り、ちらし寿司や白酒、蛤のお吸い物などを用意する<sup>(4)(6)</sup>。

「上巳」では、全体の8割位のもの知っており、6割以上のものが雛人形を飾り、料理を供えた経験があった。また、地域別では、加賀市のものが92.3%と多く経験していた。

⑤「お彼岸」は、春分の日を中日とし、その前後三日間を含む七日間で、お墓参りをして先祖の霊を供養する。この時期にはぼた餅（春）、団子、

いなり寿司や海苔巻きを仏壇に供える<sup>(4)</sup>。

「お彼岸(春)」は、全体の8割以上のものが知っており、6割以上のものが仏壇や墓参りには、ぼた餅を供えていた。地域別では、羽咋市・穴水町のものは85.7%と経験が高いのに対し、川北町は25.0%、小松市は35.0%と低くなっていた。

⑥「端午の節句」には、菖蒲を軒下に飾ったり、枕の下に敷いて寝たりする習慣や、菖蒲やよもぎを入れた菖蒲湯に入る。菖蒲は芳香で邪気を祓うとともに、疲れをとったり、打ち身に効く薬効がある。また男の子がたくましく育ち立身出世するようにと願いを込めて、鯉のぼりや武者人形を飾り祈願する。その他、菖蒲やよもぎを飾り、柏餅やちまきを供える<sup>(4)(7)</sup>。

「端午の節句」では、全体の8割位以上のものが知っており、6割以上のものが鯉のぼりや武者人形を飾り、柏餅、ちまきを供えていた。また、地域別では、羽咋市92.9%、宝達志水町88.2%、七尾市87.1%と経験率が極めて高くなっていた。

⑦「盂蘭盆」は、先祖の霊を我が家に迎え、供養し倒懸の苦を救うという行事である。中元はお盆の時期と重なることから先祖への供養の意味も込めて、恩師や親戚、知人などに品物を贈ることから生まれた習慣である。先祖への供え物という意味から、贈る品物は素麺やうどん、お米、お菓子、果物などを贈るのがしきたりであったが、近年は、家族構成や嗜好も考え喜ばれる品を選んで贈るようになった<sup>(4)</sup>。

「盂蘭盆」では、全体の8割弱が認知していた。浄土真宗が盛んな県で対象者の95%以上が50歳であるにもかかわらずお墓参りの経験はその内6割であった。これは新盆に墓参りに行っている為少ないと考えられる。

⑧「七夕」は、お盆行事の一環として行われる。中国の星伝説と日本の棚機津女(たなばたつめ)の伝説と合わさって生まれた。日本では短冊に詩歌を書いて書道の上達と他何か1つを願う習わしがある。

「七夕」は、認知しているものは全体の7割位いたが、笹を飾り短冊に願いを書くことや素麺・ところてんをたべた経験は4割と少なかった。七夕の為に素麺等を食べるという習慣は、石川県では普及していないと考えられる<sup>(4)(8)</sup>。

⑨「土用の丑」は、春、夏、秋、冬の年4回ある。時期は季節の変わり目にあたる。夏の土用の丑の日は最も暑い時期なのでよく知られている。夏ばて対策に精の付くものを食べる習慣から鰻を食べた<sup>(4)</sup>。

「土用の丑」は全体の8割以上と多くのものが認知しており、その内7割以上のものが鰻を食べていた。

市町村別の食経験では、最も多いのは加賀市92.3%で、その他7地域が8割を超えていた。

⑩「重陽」の節句は9月9日である。中国では奇数が縁起がよく、一番大きな陽の数である九が重なる9月9日を、「重陽」とし菊の花で祝う。菊は邪気や災厄を祓うと言われ、菊枕や菊酒を飲んで邪気を祓い長命を願う風習がある。この風習が日本に伝わり、昔は旧暦の9月9日に行われたが、今は新暦の9月に行う所も多い。この時期は田畑の収穫も行われる頃で、農山村や庶民の間では栗の節句とも呼ばれ栗ご飯を炊いた<sup>(4)(9)</sup>。

今回の調査では、「重陽」の節句を知っているものは全体の2割と少なく、これに関わる行事食をするものも1割未満と殆ど経験がなかった。

⑪「月見」は、日本では特に旧暦8月15日を「十五夜」中秋の名月と呼び、旧暦9月13日の月を「十三夜」と呼ぶ。月に秋の収穫物を供え五穀豊穰に感謝する十五夜祭りが定着した。「月見」の供えものは薄の他、秋の七草や月見団子・里芋・枝豆・栗・柿などを秋の収穫物が基本である。秋の収穫に感謝の意を込め、「十五夜」の月を特に「芋名月」ということもある<sup>(4)</sup>。

「月見」の認知状況は、全体の7割ほどであるが、当地は気候が悪い為であろうか、実際にお月見をし、薄や秋の七草を飾り、月見団子や収穫された野菜を供えるといった行事を営むものは半数にも満たなかった。地域別では、羽咋市67.9%、加賀市66.7%が多かった。

⑫「秋分の日」はお彼岸七日間で、お墓参りをして先祖の霊を供養する。この時期にはお萩、団子、いなり寿司や海苔巻きを仏壇に供える<sup>(3)(5)</sup>。

「お彼岸」は春と同様に秋も全体の8割以上のものが認知しており、また、6割以上のものが経験していた。また、地域別では、穴水町95.2%、七尾市87.1%と経験率が高いのに対し、川北町

25.0%、能美市 33.3%と低くなっていた。

⑬ 12月22日頃は「冬至」で、一年中で昼が一番短く、夜が一番長い日である。この冬至に、「ゆず湯」に入り、「冬至かぼちゃ」を食べる風習が日本にある。「ゆず湯」は、風邪を防ぎ、皮膚を強くするという効果がある。「かぼちゃ」は、厄除けになり、病気にならないとも言われている。かぼちゃには、カロテンやビタミンが多く含まれ、冬にビタミンなどの供給源が不足した時代には貴重なものだったからであろう<sup>(4)(10)</sup>。

「冬至」は、全体の9割程のものが認知していた。また、この行事の経験については、金沢や金沢近郊は5・6割と少し低いものの、他は8・9割以上と高くなっている。地域別では、加賀市 97.4%、羽咋市 96.4%、穴水町 95.2%など8割以上の経験率を示したところは11市町村であった。

⑭ 12月25日は「クリスマス」、イエス・キリストが「神が人間として産まれてきた」降誕を祝う日で、キリスト教国では「復活祭」と並ぶ重要な行事である。前夜のイブには朝から教会で礼拝があり、また、その年行いの良かった子供にはプレゼントが与えられる。日本でも、家族や恋人とクリスマスパーティをし、子供達はサンタクロースからのプレゼントを待ちこがれる。パーティでは部屋を飾り付けし、いちごのショートケーキ、若鶏などごちそうを並べる。世界では、ブッシュドノエルやシュトーレン、七面鳥などを並べ降誕を祝う<sup>(4)</sup>。

石川県でも年の暮れは町にクリスマスツリーが飾られており、クリスマスの認知率は8割以上と多く、また、経験率でも7割以上であった。地域別では、穴水町 95.2%、七尾市・中能登町 90.3%など8市町村が8割以上を示した。

⑮ 「大晦日」は1年の最後の日のことで、年越しの夜のことを除夜という。江戸時代までは日没が1日の境目で、「大晦日」の夜はすでに新年がはじまっていると考えられていた。そのため大晦日の夜は眠らずに年神様を待つ習わしがあった。うっかり寝るのを戒めるために、しわがよるとか白髪になるなどの言い伝えがある。現代もこの風習を受け継ぎ、ごちそうを用意して新年を祝う。全国各地で大晦日には、年越し蕎麦を食べ、除夜の鐘を聞き、初詣に行ってお雑煮を食べる伝統的

な風習は今も息づいている<sup>(4)(11)</sup>。

「大晦日」は正月と同様に全体の8割以上の多くのものが認知しており、また、年越し蕎麦を食べるなどこれに関わる行事食の経験率も8割以上と非常に多くなっている。地域別では、羽咋市 100%をはじめ11地域が8割以上であった。

⑯ 「春祭り」、「秋祭り」は神様に神饌を供えてもてなし、五穀豊穡と家々の繁栄を祈る神事が加賀や奥能登で盛んに行われている。祭りには遠方に就職しているものも帰り、祭りに参加することもある。

「春祭り」、「秋祭り」の認知は全体の8割程で、祭礼料理を準備するなどこの行事食の経験率は6割以上であった。地域別では、春祭りは羽咋市で 92.9%、中能登町で 90.3%と多く、また、秋祭りでも同様に羽咋市 100%、中能登町 87.1%と大変多くなっていた。この他にも、能登や加賀で祭りが盛んな地域が数多くある。

⑰ 「氷室」とは、日本古来の氷を蓄えておく場所のことである。江戸時代には、毎年6月1日にあわせて、加賀藩から将軍家へ氷室の水を献上する慣わしがあったが、明治時代になって消滅した。「氷室」は、金沢で昭和61年（1986年）に復活し、1月の最終日曜日に氷室小屋に雪がつめられ氷室の仕込みが行われ、6月30日に雪を取り出す氷室開きが行われている。そして、金沢市とその周辺では、7月1日に氷を模したと言われる氷室饅頭を食べて健康を祈る風習がある<sup>(12)</sup>。

「氷室」は、情報化社会である為であろうか、もともとは金沢の年中行事であるが県内の7割以上のものが認知していた。しかし、奥能登は幾分少なく5割程となっていた。また、食べた経験があると答えていたものは全体の5割程で、多い地域は予想に反し、加賀市・羽咋市で 82.1%と金沢より多くなっていた。奥能登では氷室饅頭の購入は困難とみられ、食べたものは2割くらいと少なくなっていた。

⑱ 「報恩講」とは、浄土真宗の宗祖とされる親鸞の祥月命日の前後に、宗祖親鸞に対する報恩謝徳のために営まれる法要のことである。本願寺での報恩講の初夜又は連夜の法要後に行われる法話は、改悔批判と呼ぶ<sup>(13)</sup>。

報恩講は全体の半数が知っていた。地域別では

小松市・川北町で100%と多く認知していたのに対し、能都町は25.9%、志賀町27.0%と低かった。また、法要の経験があるものは全体では大変少なく3割となっていた。地域別では川北町75%、羽咋市で64.3%と経験が多いのに対し、志賀町13.5%、穴水町14.3%、能登町18.5%と低くなっていた。

⑬「あえのこと」は毎年12月5日に、田の神様を自宅に招いて、今年1年の収穫に感謝する田の神様の祭で、奥能登一円の農家で行われている。

各家によって儀式は違うが、家の奥座敷に種もみの俵とその前方には、2股の大根2本と主人の作った栗の木の箸2膳分を左右にならべる。

田の神は目が不自由なので、お風呂へ案内して入浴していただいた後はお座敷でお休みしていただく。また、田の神様は、ご夫婦2神だとされているので、ごちそうを盛ったお膳を、2膳分神様にお供えする。その後「田の神送り」と言って、2月9日に再び同様の「あえのこと」が行われる<sup>(14)</sup>。

「あえのこと」は全体の4割程は知っているが、経験したものは6.1%と低い。地域別では、やはり能都町33.3%、珠洲市29.6%、輪島市20%など奥能登で経験が高くなっていた。

以上、「正月」・「土用の丑」・「冬至」・「クリスマス」・「大晦日」は8割以上の多くが経験していた。しかし、行事食の経験率が当然高いと考えていた「正月」、「大晦日」については100%の経験

率ではなかった。この他「月見」・「七夕」は経験率が半分以下、「重陽」の節句については1割以下と大変少なかった。

## 2. 通過儀礼の認知と経験

通過儀礼13種類の認知状況(図3-1、表5-1)と喫食経験(図3-2、表5-2)を合わせて検討を行った。

①「出産祝い」は子供や友達、親戚、職場の同僚とさまざまな人に心を込めて品物を贈るが、品物を贈った経験のある人は、全体の6割となっていた。地域別では能登町が85.2%と多いのに対し、能美市では19%と大変低くなっていた。

②「お七夜」とは誕生から7日目の夜に赤ちゃんの健やかな成長を願って行うお祝いである。生まれた子に正式に命名するのが習わしになっている。命名書は神棚や仏壇に供え、祝い膳を囲む<sup>(4)</sup>。

石川県では全体の6割くらいのもものが認知しているが、経験のあるものは3割程と大変少ない。地域別では中能登町で64.5%と経験率が多くなっていた。

③「百日祝い」は、新生児の生後100日目に「一生涯、食べることに困らないように」との願いを込めて食事をする真似をさせる儀式である。祝い膳には赤飯や鯛、金頭、お吸い物、漬け物などの一汁三菜が出される<sup>(4)(15)</sup>。

当地では、「お食い初め」といい全体の七割のものが認知していた。経験のあるものは五割であったが、地域別では、能美市が3割以下と低く

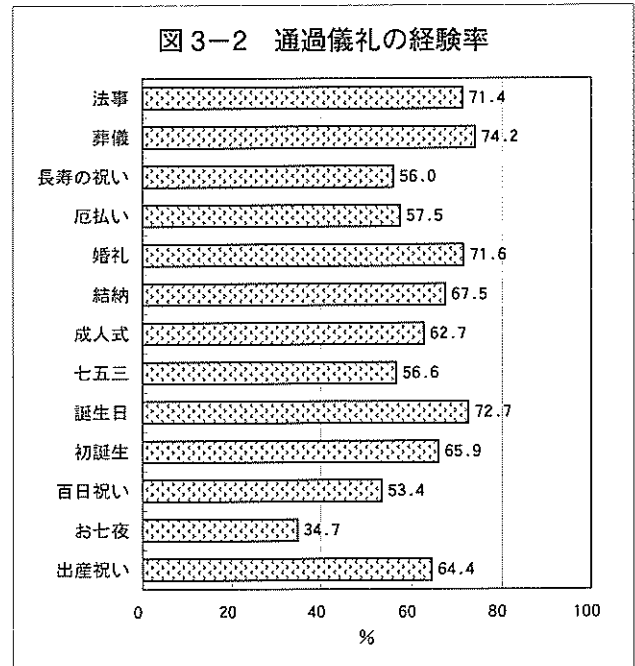
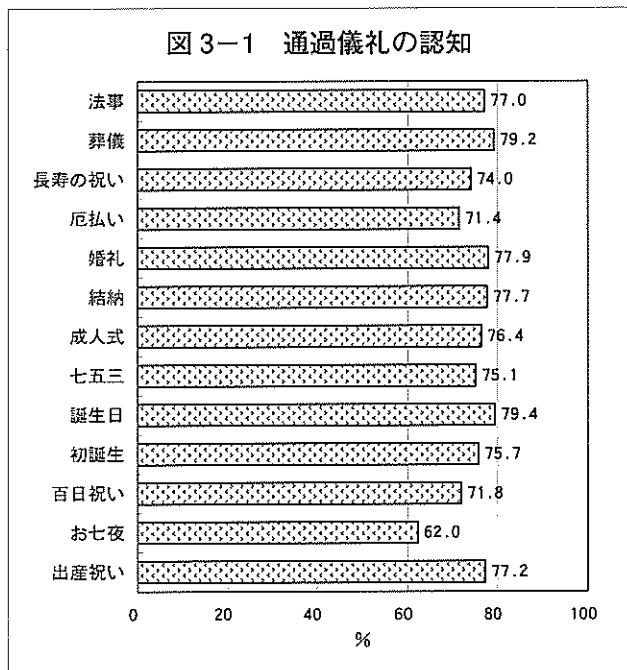




表 5-1 通過儀礼の認知状況（地域別）

認知	人数	出産祝い	お七夜	百日祝い	初誕生	誕生日	七五三	成人式	結納	婚礼	厄払い	長寿の祝い	葬儀	法事
全体	461	77.2	62.0	71.8	75.7	79.4	75.1	76.4	77.7	77.9	71.4	74.0	79.2	77.0
加賀市	39	92.3	76.9	89.7	92.3	94.9	89.7	87.2	87.2	89.7	84.6	89.7	89.7	87.2
小松市	20	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.0	95.0	100.0	95.0	95.0	95.0	100.0	100.0
能美市	21	47.6	38.1	42.9	38.1	52.4	47.6	47.6	52.4	57.1	52.4	47.6	47.6	52.4
川北町	4	100.0	25.0	50.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	100.0	100.0	75.0	75.0
白山市	31	74.2	48.4	64.5	64.5	71.0	67.7	67.7	64.5	67.7	67.7	64.5	71.0	71.0
野々市町	20	80.0	80.0	80.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	80.0	85.0	80.0
かほく市	18	72.2	66.7	77.8	72.2	77.8	77.8	77.8	77.8	77.8	77.8	72.2	77.8	77.8
津幡町	20	80.0	75.0	80.0	85.0	90.0	85.0	85.0	90.0	90.0	90.0	80.0	90.0	90.0
内灘町	25	72.0	48.0	64.0	68.0	68.0	68.0	68.0	72.0	68.0	64.0	60.0	68.0	56.0
金沢市	29	72.4	48.3	69.0	72.4	72.4	72.4	72.4	75.9	75.9	72.4	62.1	79.3	75.9
羽咋市	28	85.7	75.0	82.1	85.7	85.7	82.1	85.7	82.1	89.3	75.0	78.6	85.7	85.7
志賀町	37	73.0	51.4	62.2	73.0	70.3	70.3	67.6	70.3	64.9	59.5	70.3	70.3	70.3
宝達志水町	17	76.5	64.7	64.7	70.6	76.5	76.5	70.6	76.5	76.5	76.5	64.7	76.5	70.6
七尾市	31	74.2	67.7	67.7	74.2	80.6	67.7	77.4	74.2	71.0	54.8	77.4	74.2	77.4
中能登町	31	83.9	80.6	83.9	83.9	87.1	74.2	87.1	83.9	83.9	71.0	80.6	83.9	77.4
輪島市	15	46.7	40.0	40.0	60.0	60.0	53.3	53.3	60.0	53.3	46.7	60.0	60.0	53.3
穴水町	21	90.5	71.4	85.7	95.2	95.2	85.7	95.2	90.5	95.2	85.7	90.5	100.0	95.2
能登町	27	85.2	48.1	74.1	77.8	88.9	88.9	85.2	92.6	96.3	66.7	81.5	96.3	92.6
珠洲市	27	63.0	44.4	55.6	55.6	66.7	59.3	59.3	63.0	63.0	63.0	63.0	66.7	66.7

表 5-2 通過儀礼の経験（地域別）

経験	人数	出産祝い	お七夜	百日祝い	初誕生	誕生日	七五三	成人式	結納	婚礼	厄払い	長寿の祝い	葬儀	法事
全体	461	64.4	34.7	53.4	65.9	72.7	56.6	62.7	67.5	71.6	57.5	56.0	74.2	71.4
加賀市	39	79.5	59.0	74.4	84.6	89.7	76.9	74.4	79.5	82.1	79.5	79.5	87.2	84.6
小松市	20	80.0	35.0	50.0	65.0	75.0	75.0	75.0	95.0	90.0	90.0	60.0	100.0	80.0
能美市	21	19.0	0.0	28.6	28.6	38.1	19.0	19.0	33.3	42.9	28.6	33.3	38.1	42.9
川北町	4	75.0	25.0	50.0	50.0	50.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	50.0	75.0	75.0
白山市	31	58.1	19.4	48.4	48.4	58.1	61.3	61.3	51.6	58.1	58.1	48.4	61.3	64.5
野々市町	20	50.0	25.0	65.0	75.0	75.0	70.0	70.0	70.0	75.0	65.0	65.0	75.0	70.0
かほく市	18	50.0	22.2	50.0	55.6	72.2	61.1	61.1	77.8	77.8	72.2	61.1	77.8	77.8
津幡町	20	55.0	50.0	65.0	70.0	70.0	50.0	50.0	75.0	75.0	65.0	40.0	75.0	75.0
内灘町	25	60.0	28.0	48.0	56.0	60.0	48.0	48.0	52.0	56.0	52.0	48.0	52.0	48.0
金沢市	29	51.7	17.2	51.7	62.1	62.1	55.2	55.2	58.6	58.6	41.4	48.3	65.5	62.1
羽咋市	28	78.6	50.0	57.1	82.1	85.7	53.6	78.6	75.0	89.3	75.0	67.9	85.7	85.7
志賀町	37	67.6	37.8	51.4	70.3	67.6	59.5	56.8	56.8	62.2	43.2	48.6	70.3	67.6
宝達志水町	17	64.7	41.2	47.1	64.7	76.5	41.2	58.8	64.7	64.7	64.7	52.9	70.6	70.6
七尾市	31	74.2	51.6	51.6	74.2	80.6	61.3	71.0	74.2	71.0	41.9	61.3	74.2	74.2
中能登町	31	80.6	64.5	74.2	80.6	83.9	64.5	83.9	77.4	80.6	58.1	61.3	80.6	74.2
輪島市	15	40.0	20.0	26.7	53.3	60.0	33.3	40.0	53.3	53.3	33.3	40.0	60.0	53.3
穴水町	21	71.4	38.1	71.4	81.0	95.2	76.2	90.5	76.2	90.5	71.4	66.7	100.0	85.7
能登町	27	85.2	14.8	48.1	66.7	85.2	59.3	59.3	85.2	92.6	44.4	55.6	92.6	92.6
珠洲市	27	55.6	22.2	29.6	48.1	63.0	25.9	51.9	55.6	63.0	51.9	51.9	63.0	63.0

なっていた。

④「初誕生」は数え年を使って年齢を数えていた頃はすべての人が正月を迎えるごとに年をとっていたため、個々の誕生日を祝うことはなかったが、初誕生だけは特別に一年間無事に育ったことを祝うものである<sup>(4)</sup>。

「初誕生」のお祝いは全体の6割以上のものが行っていた。地域別では加賀市84.6%、羽咋市82.1%、穴水町81.0%、中能登町80.6%は8割以上と多いが、能美市では28.6%と低くなっていた。

⑤「誕生日」は現在満年齢で数えるようになり、個々の誕生日を家族でお祝いすることが多い。ケーキや寿司など家族の好物が用意される。

「誕生日」のお祝いは全体の7割以上がしていた。地域別では穴水町95.2%、加賀市89.7%、羽咋市85.7%、中能登町85.2%と祝う世帯が多いのに対し、能美市は38.1%と低くなっていた。

⑥「七五三」は子供の節目の年に氏神様や神社に

詣で、健やかな成長を願う行事である。神社で男の子は三歳と五歳、女の子は三歳と七歳で厄落としを行い、祝い膳を囲む<sup>(4)</sup>。

「七五三」を祝う世帯は全体の5割以上であった。地域別では加賀市は76.9%、穴水町76.2%、小松市・川北町で75.0%と多くが祝っているのに対し、能美市19%、珠洲市25.9%と低くなっていた。

⑦「成人式」とは、日本では成人に達する満20歳になると成人の仲間入りをし、社会的な義務や責任を負うようになる<sup>(4)</sup>。

「成人式」は全体の6割以上のものが経験していた。地域別では穴水町90.5%、中能登町で83.9%と経験率が高いが、能美市では19%と低くなっていた。

⑧「結納」とは、結婚の確約に伴う儀式で、両家が親族の「結」びつくことを祝い、贈り物を「納」め合うことを意味する。結納により結婚の約束を

正式に交わし、その後両家でお祝いの膳を囲むことが多い<sup>(16)</sup>。

「結納」は全体の6割以上が経験をしているが、地域別では、小松市95%、能登町85.2%と経験が多くなっているのに対し、能美市では33.3%と少なくなっていた。

⑨「結婚」は、男女が夫婦になり契約を結ぶことで、婚姻届を出し戸籍に記載される。婚礼は夫婦が盃を交わした後、親類縁者や知人、友人に食事を振る舞いお祝いをする<sup>(4)</sup>。

結婚式の経験は全体の7割以上で経験があった。地域別では能登町92.6%、穴水町90.5%、小松市90%で非常に高くなっていた。

⑩「厄払い」とは厄年に災厄を避け、今後の人生を無事安泰に過ごすために祈願祈禱することである。代表的なものは、男の大厄42歳、女の大厄33歳である。この時、紅白の一升餅とお酒を神社に奉納し厄払いをし、親戚にお餅とお酒、鯛の干物を配り厄を分ける。厄払いは全体の5割以上のものを行っている。地域別では小松市90.0%と多く行っているが、能美市では28.6%と低くなっていた<sup>(17)</sup>。

⑪「長寿の祝い」とは長寿に敬意を表し、今後の健康と長生きを祈る。祝いの種類には数え年六十一歳「還暦」、七十歳「古希」、七十七歳「喜寿」、八十歳「傘寿」、八十八歳「米寿」などがある<sup>(4)</sup>。

「長寿の祝い」は全体の5割以上のものを行っている。地域別では加賀市79.3%と多く行っているが、能美市では33.3%と低くなっていた。

⑫「葬儀」は、人の死を弔うために行われる祭儀で葬儀の後、故人を忍び料理を振る舞う<sup>(18)</sup>。

葬儀は全体の7割以上が経験している。地域別では小松市、穴水町で100%と多く経験していたのに対し、能美市では38.1%と低くなっていた。

⑬「法事」とは故人を年忌で区切り、死者を弔う儀式である。法要の後、故人と親しい友人や家族、親類などお酒と料理で故人を忍ぶ<sup>(19)</sup>。

法事は葬儀と同じく全体の7割以上が経験していた。地域別では能登町92.6%、穴水町・羽咋市では85.7%の多くのものが経験していた。

以上、「葬儀」・「婚礼」・「法事」・「誕生日」は7割以上の多くが経験していたが、お七夜については3割程と少なくなっていた。これについては

母親が実家で静養をしていることが多いため、簡単に母方の方でお祝いをしていると推察した。

### 3. 市町村のクラスター化

本調査では、県内を19市町村に分けて調査を行ったが、19市町村を特徴によりグループ分けするため、経験率よりクラスター分析を行った。(表6)

クラスター分析には、階層的分類法と非階層的分類法があるが、ここでは階層的分類法のうち、k-means法により分析した<sup>(20)</sup>。

まず、クラスター数3より試行解析をおこなったところ、クラスター数が5から6へ移行する際に総平均平方和の傾斜が急から緩へと変わったため、クラスター数を5とした(図.4)。

表は経験率による市町村の分類と、平均を示したものである。クラスター1は1市町村が、クラスター2には3市町村、クラスター3～5にはそれぞれ5市町村が分類された。

クラスター1は、1市のみであるが、どの行事においても経験率が低いという特徴がみられた。

クラスター2では、年中行事では低いものが多いが、通過儀礼については高いものもみられた。中で、「報恩講」「七五三」「結納」「厄払い」の経験率は、5つのクラスターの中で最も高く、「出産祝い」は「法事」なども高い傾向であるのに対し、「彼岸」や「クリスマス」は低くなっていた。

クラスター3は、クラスター1に次いで経験率が低いものが多く、特に通過儀礼でその傾向が顕著であった。このクラスターでは金沢市、内灘町など都市部が入っているが、能登地区の輪島市、珠洲市も含まれ、今後検討の要があると考えている。

クラスター4は、殆どの行事で経験率が高く、年中行事では仏教行事である「報恩講」と地域性の高い「あえのこと」をのぞき、すべて5つのクラスターの中で高くなっていた。通過儀礼においても同様の傾向で、「誕生日」なども87.0%と極めて高くなっている。

クラスター5は今回の調査対象の平均的な傾向を示していた。

以上、石川県内の地域的な特徴を明確にしたいと考え、行事食の経験率により、クラスター分析を試みたが、地理的要因よりも、都市化などの要因

表6 経験率による市町村の分類と平均

	(%)					
	全平均	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5
市町村数	19	1	3	5	5	5
市町村名		能美市	小松市 川北町 かほく市	白山市 内灘町 金沢市 輪島市 珠洲市	加賀市 羽咋市 七尾市 中能登町 穴水町	野々市町 津幡町 志賀町 宝達志水町 能登町
正月	87.0	81.0	89.8	79.1	90.7	90.6
七草	61.6	38.1	65.6	59.4	73.4	54.5
節分	64.9	47.6	48.3	60.2	80.9	66.9
上巳	65.6	47.6	48.3	59.4	83.3	68.2
彼岸(春)の中日	61.9	42.9	34.8	56.0	82.2	67.5
端午の節句	63.6	47.6	48.1	52.8	83.6	66.8
盂蘭盆	61.4	42.9	64.6	48.7	73.5	63.7
七夕	40.2	28.6	31.1	42.5	45.5	40.4
土用の丑	75.9	52.4	73.7	69.7	84.0	79.9
重陽の節句	7.5	9.5	5.2	8.9	12.4	2.3
お月見	48.5	28.6	36.1	48.0	60.9	47.8
彼岸(秋)の中日	64.3	33.3	46.7	57.8	83.2	68.6
冬至	78.6	52.4	67.0	66.6	94.6	86.7
クリスマス	73.7	42.9	62.2	67.5	90.0	76.5
大晦日	80.4	47.6	78.9	67.3	96.6	84.9
春まつり	64.5	42.9	60.4	48.4	84.0	67.9
秋まつり	66.7	52.4	65.7	52.4	83.4	67.9
氷室	55.2	38.1	65.2	43.9	65.3	53.8
報恩講	36.1	28.6	58.3	28.9	37.4	30.2
あえのこと	6.0	0.0	0.0	10.6	3.0	9.2
出産祝い	63.0	19.0	68.3	53.1	76.9	64.5
お七夜	32.7	0.0	27.4	21.4	52.6	33.8
百日祝い	52.0	28.6	50.0	40.9	65.7	55.3
初誕生	64.0	28.6	56.9	53.6	80.5	69.3
誕生日	70.9	38.1	65.7	60.6	87.0	74.8
七五三	56.1	19.0	70.4	44.7	66.5	56.0
成人式	62.1	19.0	70.4	51.3	79.6	59.0
結納	67.7	33.3	82.6	54.2	76.5	70.3
婚礼	71.4	42.9	80.9	57.8	82.7	73.9
厄払い	58.5	28.6	79.1	47.3	65.2	56.5
長寿の祝い	54.7	33.3	57.0	47.3	67.3	52.4
葬儀	73.9	38.1	84.3	60.4	85.5	76.7
法事	70.9	42.9	77.6	58.2	80.9	75.1

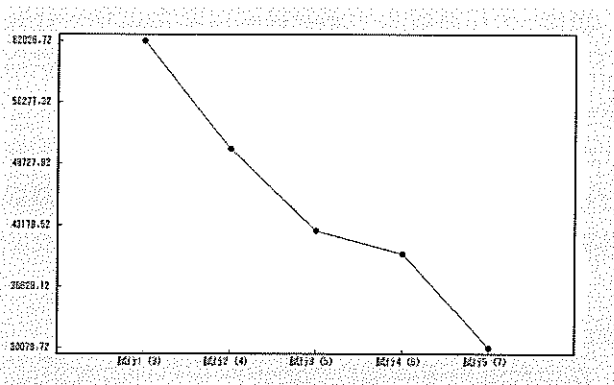


図4 クラスター数による総平方和の変化

の方が大きいように推察された。今後は、正月の雑煮や出現料理の中で、食文化的な要因となり得るものも取り上げながら分析をしたいと考えている。

#### 4. 年中行事と通過儀礼の経験率の比較

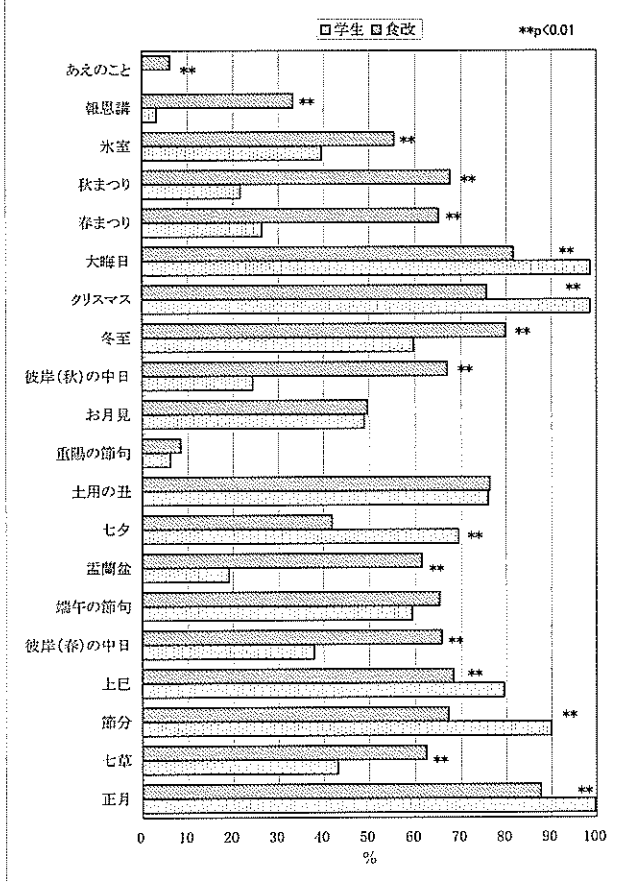
年代間の行事食への取組の差異を検討するため、学生を対象としたものと、経験率について比較を行った。

##### ①年中行事の経験状況

図5-1は年中行事20種類の経験状況を示したものである。また、有意差の有無を比較した結果、「重陽の節句」、「土用の丑」、「端午の節句」、「お月見」を除く16の行事で有意差があった。

最初に、年中行事の中で「報恩講」の法要や「お彼岸」の墓参り、「盂蘭盆」の墓参りに関する事や「春・秋の祭り」の地域行事などは、若い学生より食生活改善推進員の方が先祖供養を大切に考えており、また、年齢も重ねていることから当然のことであるが、経験を多く重ねていた。

図5-1 年中行事の経験率の比較



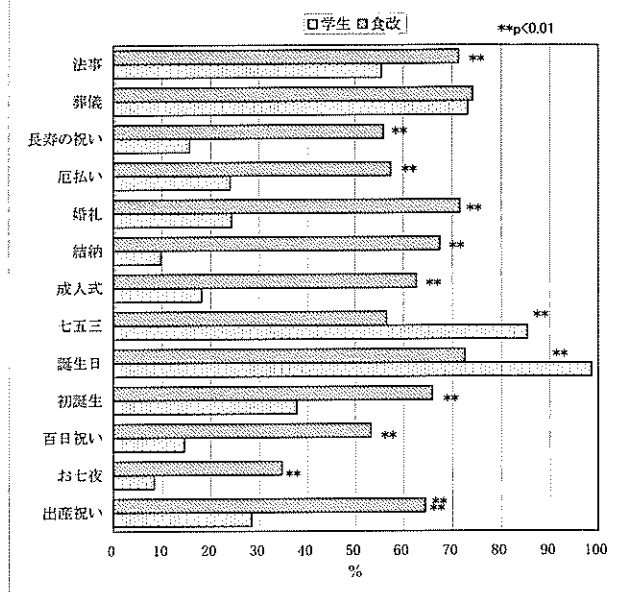
次に、「あえのこと」は、奥能登に伝わる年中行事であるが、奥能登出身の学生が少ない為、有意差があったと考えられる。

また、「クリスマス」・「上巳」・「節分」は学生の方が経験率が高かった。ひな祭りについては、旧来は一般化していなかったことや、クリスマスは時代的に新しい行事で、盛んに行われているためと考えられる。

さらに、「大晦日」や「お正月」では、調査対象全員が「大晦日」や「お正月」は知っており、経験もあると考えていたが、食生活改善推進員に認知や経験がない方がいた。これについて、近年は正月に親類が集まったりすることが減り、家族で過ごすことが多くなったことから、今回の調査対象では、一人世帯や核家族世帯が多く、特にこれらの行事に特別な料理を準備することがなかったためと考えられるが、この他、調査用紙の内容が理解されなかったことも原因と考えられる。

以上、若年齢と高年齢により年中行事の経験率に差のあるものが多くなっていた。

図5-2 通過儀礼の経験率の比較



## ②通過儀礼の経験状況

図5-2は通過儀礼13種類の経験状況を示したものである。また、カイ2乗検定による有意差の有無を比較した結果、葬儀以外で有意差があった。

最初に、食生活改善推進員の方は、「法事」や「長寿の祝い」は親や夫、本人で経験し、また、「厄払い」・「婚礼」・「結納」・「成人式」は夫や本人、子供、親戚で経験を重ね、さらに、「初誕生」・「百日祝い」・「お七夜」・「出産祝」では子供や孫、親戚、知人などで経験を多くしていることが伺え、若い学生に比べ経験率が高くなっていた。

次に、「七五三」・「誕生日」は学生自身が経験しており、食生活改善推進員より学生の方が高かった。

以上、通過儀礼では、「七五三」・「誕生日」などは学生の経験率が高かったが、その他の通過儀礼は食生活改善推進員の方が多く経験していた。

## IV. まとめ

年中行事や通過儀礼の際のハレの日の食事は、生活環境、食環境の変化にともない、姿を変えつつあるなか、年中行事や通過儀礼について検討をおこなった。

① 年中行事の「正月」・「土用の丑」・「冬至」・「クリスマス」・「大晦日」は8割以上の多くが経験していた。しかし、経験率が当然高いと思った「正

月]、「大晦日」については100%の経験をしてなかった。これは、調査対象の家族構成などの生活状況などが影響したものと思われる。

② 年中行事のうち「月見」・「七夕」は経験が半分以下、「重陽」の節句については1割以下と大変少なく天候の不順等もあり、石川県ではあまり行われていなかった。

③ 通過儀礼「葬儀」・「婚礼」・「法事」・「誕生日」は7割以上の多くが経験していたが、「お七夜」については3割程と少なくなっていた。

④ 行事食の経験率により、クラスター分析の結果、地理的要因よりも、都市化などの要因の方が大きいように推察された。

⑤ 年中行事の中で「報恩講」や「お彼岸」・「盂蘭盆」・「春・秋の祭り」の地域行事などは、若い学生より食生活改善推進員の方が多く経験していた。

⑥ 「あえのこと」は、奥能登に伝わる年中行事である為、食生活改善推進員より、奥能登出身学生が少なく経験は低かった。

⑦ 「クリスマス」・「上巳」・「節分」は新しい行事であることや、女子学生が多かったことから学生の経験が高かった。

⑧ 通過儀礼では「七五三」・「誕生日」など学生本人が経験しているものが高かった。その他の通過儀礼は食生活改善推進員の方が多くを経験していた。

附記：本研究は2010年度北陸学院大学短期大学部共同研究費の助成によるものである。

<参考文献・引用文献>

- 1) 吉田勉他 2005 『健康と食生活』学文社
- 2) <http://expo.minnade.jp/isikawa.htm> (2010.11.28)
- 3) <http://18630862.at.webry.info/theme/d069afcf94.html> (2010.10.16)
- 4) 新谷 尚紀 2007 「季節の行事と日本のしきたり」マイコミ
- 5) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%AF%E5%8D%88> (2010.10.3)
- 6) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B7%B3> (2010.10.3)
- 7) <http://www.bukyu.com/seck/s5.html> (2010.10.3)
- 8) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E5%A4%95> (2010.10.3)
- 9) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8D%E9%99%BD> (2010.10.10)
- 10) <http://eiyougaku.hp.infoseek.co.jp/touji.htm> (2010.10.10)
- 11) [http://iroha-japan.net/iroha/A01\\_event/13\\_omisoka.html](http://iroha-japan.net/iroha/A01_event/13_omisoka.html) (2010.10.10)
- 12) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%AE%A4> (2010.10.10)
- 13) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A0%B1%E6%81%A9%E8%AC%9B> (2010.10.11)
- 14) <http://www.iju-join.jp/prefectures/ishikawa/217001/k/1137/> (2010.10.11)
- 15) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E9%A3%9F%E3%81%84%E5%88%9D%E3%82%81> (2010.10.11)
- 16) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%90%E7%B4%8D> (2010.10.11)
- 17) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%90%E5%A9%9A> (2010.10.11)
- 18) <http://www.bing.com/search?q=%E8%91%AC%E5%84%80&go=&form=QBRE&filt=all&qsn=&sk=&sc=8-2> (2010.10.14)
- 19) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%95%E8%A6%81> (2010.10.14)
- 20) 日科技研数理部 2001 『多変量解析ユーザーズマニュアル』日科技研